

■第2回番町次世代シンポジウム 議事要旨

開催日時：2025 年 9 月 20 日(土) 午後 3 時～午後7時

出席者：55 名（参加:22 名、傍聴:33 名）

ファシリテーター：東京大学 加藤 孝明 教授

ファシリテーター補佐：東京大学大学院生 内藤 克子氏

コメンテーター(専門家)：東京大学 村山 顕人 教授

事業者：日本テレビ放送網(株)

事務局：千代田区 環境まちづくり部 地域まちづくり課

プログラム：1)シンポジウムの開催趣旨
2)二番町地区地区計画の概要説明
3)日本テレビからの挨拶
4)心配事の解消
5)今後の予定

【議事要旨】

1 シンポジウムの開催趣旨

区から以下を説明した。

- ・ 本シンポジウムは二番町地区地区計画の変更手続きに伴う附帯決議に基づき地区の融和を図り、前向きに話し合える場づくりとして実施
- ・ 令和7年1月に開催された第1回では番町地域全体の前向きな未来について議論したことを踏まえ、今回は日本テレビ跡地計画をテーマとし、心配事の解消を目的として実施。

2 二番町地区地区計画の概要説明

区から昨年 7 月に変更決定した二番町地区地区計画の概要として、資料 2-2 を用いて以下を説明した。

- ・ 地区計画における整備方針である、有楽町線麴町駅へのバリアフリー動線や歩行者ネットワークの整備、タクシーや福祉バス等の地域交通広場の整備、街区公園規模の広場整備などの地域貢献内容
- ・ あわせて、これまでの二番町地区地区計画のうち、日本テレビ跡地及びスタジオ棟の区域について、容積率や高さの緩和、建物の形態規制として壁面後退の制限を実施

ファシリテーター及びコメンテーターより参加者からの質疑に対してコメントがあった。

- ・ 参加者からの当日配布資料と投影資料の相違の指摘を受け、分かりやすい資料と広報の必要性について言及があった。
- ・ 参加者から、地区計画と総合設計による空地確保の違いについて質問があり、都市計画法に基づく地区計画の方が公共性の高い空間を確保できるとのコメントがあった。

3 日本テレビからの挨拶

日本テレビより、当該敷地の過去からの土地利用及び地域とのつながりを振り返りながら、引き続き地域の発展のために開発計画をいいものにしていきたいとの挨拶がなされた。

4 心配事の解消

ファシリテーターの進行により、事前に地域住民等から寄せられた心配事を整理した資料(資料 3)をもとに、当日の参加者の追加意見も募り、それら心配事に対するコメンテーターからの見解、日本テレビや区の考え方を回答していった。

その上で、それぞれの心配事を以下の三つに分類し、色分けし整理した。

緑色：心配の必要が低い(解消済み)

黄色：今後の検討の中で解消(日本テレビが計画を具体化していく際に整理されていく事項)

赤色：要検討(新たな場での検討が必要となる事項)

概要は以下のとおり。

- ・ 過度な繁華街化や観光地化やそれに伴う住宅地としての価値の毀損、周辺での超高層開発の助長等についての心配事がでているが、現行の地区計画を踏まえると心配には及ばないとされた。
- ・ 周辺景観との調和や周辺環境を踏まえた適切なテナント選定、開発に伴う各種の影響(風、日照、交通)等の心配事は、今後の検討の中で心配事が解消されるよう関係者が努力する。
- ・ 広場等を活用したエリアマネジメントに関しては、設置の意味合いやどのような役割を果たすものかを含めて今後、共通の認識となるように情報提供を図る必要があることが明らかになった。

※心配事の解消に関する詳細は、議事要旨別紙を参照。

5 今後の予定

区から、現時点では日本テレビ跡地計画の具体的なスケジュールが示されない状況ではあるものの、心配事の解消には具体の計画がないと議論が難しいことから、次のシンポジウムは、日本テレビから建築計画を説明する場として開催していきたいことを説明した。

以 上